

====今月号は4ページ建てでお届けします。====

## 災害援助募金へのご協力をお願い

東日本大震災の被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。

日本健康太極拳協会では被災者に対する**災害援助募金**活動を行うことになりましたので、各教室の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

ご協力いただいた募金につきましては教室ごとに取りまとめのうえ、協会所定の災害援助金口座に振り込むことといたします。

講師 茶木 登茂一

## **トピックス 瑞江鶴の会 25周年を祝う！**

江戸川区の瑞江鶴の会はこの3月で創立25周年を迎えました。会は1986年4月に江戸川区南篠崎児童館において区主催の母級学級の太極拳教室としてスタートし、その出身者による自主サークルに発展して、ずっと続いてきたものです。当初から故豊島なつ江師範が指導に当たりましたが、坂巻文恵師範



や松浦美恵子師範がお手伝いしてい

た時期もあります。2001年秋からは豊島なつ江師範に代わって茶木が指導するようになって今日に至っております。去る3月29日には、25周年記念の練習会を行ないました。その後は場所を移して昼食会を開催して、先輩会員からむかしの話を聞いたり、古いアルバムを見たりして25周年を回顧しながらいっそうの懇親を深めました。

## **各教室で年間皆勤者等を表彰**

各教室で毎年度末恒例の年間の皆勤者と精勤者の表彰を行い、ささやかな記念品をお贈りしました。

瑞江鶴の会； 皆勤賞 藤城弘子さん 精勤賞 蟹谷幸子さん、西山忠さん

亀戸SC教室； 皆勤賞 井下れい子さん、鈴木和子さん、西野進一郎さん、  
精勤賞 松田早苗さん、大久保明也さん、田中高代さん、

代々木鶴の会（新日鐵OB会教室）； 皆勤賞 高巢禮二さん

精勤賞 原田満さん、木本哲雄さん、愛智孝明さん

東大島鶴の会； 皆勤賞 中野純子さん 精勤賞 小向彰子さん、古河宏平さん、高橋ミサ子さん、  
森田璃絵子さん

## 亀戸 SC 教室が 1 年間暫定自主サークルに

これも創立 20 周年を迎える、亀戸スポーツセンター直営の太極拳教室に思わぬ事態が発生しました。それは同所が 6 月 20 日から約 1 年間大規模修繕のため休館になることが決まったからです。

休館中をどうするか、現在の 50 名の会員の皆様の熱意で、その間は自主サークルを作って練習を続けようということに決まりました。すでに「健康太極拳亀戸 SC 会」の名前でサークルが結成され、近くの江東区青少年センターなどを使つての実質的な教室継続の目途がつけました。

### 「体験会」から「早朝太極拳の会」へ

昨年 11 月から地元の清新町南ハイツ自治会の懇親組織「プロバンス会」主催で開催してきた「太極拳体験会」は、4 月からは「早朝太極拳の会」と名前を変えて、南ハイツ内のプレイロットで続けることとなりました。これは、同会が今年 3 月に区公認の熟年者団体である「清新くすのきプロバンス会」として新発足するにあたり、その活動の一つとして行われるようになったものです。熟年者に限らずどなたでも自由に参加できるようにと考えております。

### 本部会員も支部費の拠出をお願いします

従来、本部会員については支部会費 1000 円の負担は免除されておりましたが、本年度より本人負担と変更されましたので、各所属教室においてそれぞれ拠出をお願いいたします。東京都支部の運營業務の自立化のための財政措置の一環との説明を受けておりますので、ご理解をお願いいたします。

## 健康妄語録

### 「柔弱は剛強に勝つ（老子）」の本当の意味は？

今回の大地震の規模について、“想定外の”という言葉がよく使われています。東京電力の社長いわく、今回の地震と津波の規模は想定をはるかに超えるものだった、と。また世界一の“田老の万里の長城”とも呼ばれる高さ 10 メートルの堤防を二重に築いていた宮古市田老地区の責任者いわく、これで完全に防げると安心していましたが、安心していただけが油断につながったかも知れない。しかし今回のような規模は想定しようがなかった、と。

田老地区のみならず、過去再三津波の大被害を受けている宮城県や岩手県のリアス式海岸部の市町村は、とくに 1960 年（昭和 35 年）のチリ地震津波の惨禍の後、国の直轄事業も含めて大々的な津波対策工事に着手して、海岸防潮堤や海中大堤防などを築いてきました。

たとえば、釜石湾には三十年近い歳月と、4000 億円（一説には 7000 億円）にも及ぶ巨額の工事費を費やして、これも世界一の、ギネスブックにも登録された湾口防波堤【写真；右】がやっと 2009 年に完成し、これで安心と誰しもが思っていたことでしょう。最



深63mという海中にピラミッドのような土手を延々と築きその上に全長1800mにも及ぶ2本の防波堤を築いたもので、規模的にも技術的にもまさに世界に類を見ない堤防であったろうと思われませんが、これも一瞬にして破壊されてしまったと報道されています。



今回とくに被害の大きかった大船渡市も、釜石と同様の湾口堤防【写真；左】を築いて備えていたのですが、国交省のブログを見ると、震災後は現認出来ないとしています。

他の町もみな同様でしょう。安全と言われ、そう信じて安心していたのが裏目に出たのかも知れませんが、夥しい犠牲者の無念、被災者の悲しみと今後の苦難を想うとき、またあまりにも広範な被災地の今後の復興の問題を考えると、まさに言葉がありません。

つくづくと大自然（あるいは全能の神のなせる業）の脅威とその過酷さ、無慈悲さを思い知らされました。人間がそれを想定できる智慧、そしてそれに対抗できる力、を持っていなかったことを今回もまた思い知らされたと言い換えることも出来ます。

今回いろいろな情報をブログなどで得ることが出来ましたが、そのなかで宮古市の姉吉部落から浜へ降りる道に建っている石碑のことを知りました。姉吉部落というのは重茂半島の突端にある鮭ヶ崎灯台に近い小漁村の呼称です。この部落は明治29年（1896）の三陸大海嘯でも、昭和8年（1933）の大津波でも居住者のほとんどが犠牲になったことから、そのいましめとして建てられたものだそうです。ちなみに鮭ヶ崎灯台は本州最東端の灯台として、また映画「喜びも悲しみも幾年月」ゆかりの灯台として有名です。

その碑に刻まれているのは以下の一文です。

『高き住居は児孫の和樂 想え惨禍の大津波 此处より下に家を建てるな』

老子の言う「柔弱は剛強に勝つ」とはこのことなのではないでしょうか。自然の脅威、あるいは神のなせる業、には勝てるはずが無い、人間はそれほど弱いのだということを認識することこそ、すなわち「柔弱は剛強に勝つ」ということなのです。強いものと戦えば必ず負ける、戦わないことが至上の策であるということです。姉吉の場合は海岸には住居を建ててはいけないというのがその分別であり、それを後世に伝えるためにこの石碑を建てたのです。

老子は「天下に水より柔弱なるは莫く、而して堅強を攻める者、之に能く勝るもの莫し。」とも言っています。水より柔弱なものは無いと言いながら、同時に水ほど強いものは無いと看破しているのです。どんな強固な、高い堤防を築いても、もし津波のエネルギーがそれを上回ってれば水は必ずそれを乗り越え、あるいはそれを壊して侵入します。老子は「それというのも、何物もその本性を変えることは出来ないから」と続けています。まさに今回の津波の脅威がそれに当たります。

老子の「道（タオ）」から導き出されたこれらの箴言は2500年の時空を超えて、いまなおゆるぎない真理であり続けていることを今回の大震災を通じて改めて感得しました。

とは言うものの、これも老子の言うように「無為自然」と開き直るわけにもゆかないでしょう。これからもわれわれはいろいろな種類の自然災害に対する備えを怠ることはやはり出来ないでしょう。人々が安

心を求め続ける以上、それが社会の要請である以上、より安全なものを、ある想定の中かで、財政との折り合いの中かで、設計し、予算化し、建造し、整備し続けることでしょう。虚しいことかも知れませんが。

しかし、ただただ強いものを作ればよいという従来のやり方では無く、人間（社会）の弱さを前提とした、より柔軟な、より謙虚な、自然災害との付き合い方を考えざるを得なくさせたのが今度の大地震であったとも言えます。

## 旅をうたい拳を詠む 未曾有の大震災に遭遇して

2011年3月11日午後2時46分にマグニチュード9.0という未曾有の大地震が発生しました。そして東北地方太平洋沿岸が想定外といわれる大津波に襲われ、さらにはこれが福島原子力発電所を機能不全に陥れて、放射能漏れの危機的状況となりました。

私の受けたもろもろのショックや想いを歌に託しました。

(東大島鶴の会の太極拳を終えてマンションの10階の居室に戻っていたのは幸いでしたが)

大揺れのいつ終るかとひたすらに祈りてただにへたり込むのみ

(次々と映し出される映像はまるで白昼夢のようでした)

建物も車も船ももろともに呑み込み奔る黒いツナミよ  
惨状をただ映像で次々と白昼夢のごと見るはもどかし

太極拳の仲間も多き東北のこの惨状に胸を衝かるる

(むかし仕事でたびたび訪れた、釜石の状況がとても気懸りでしたが)

釜石のツナミ映像瞬時にて後の情報乏しくもどかし

被災子はツイッターにたんたんとうき津波崩壊を告ぐ

(そして原発の事故はなお恐ろしい)

神様の聖域犯せし咎なるや制御危うき福島原発

命賭け原発護る人々に何もて我ら報い得らん

(原発の施設のみならず、防潮堤や湾口堤防なども)

神の為すわざ賢しくも想定し

これは想定外と弁じる賢しさ  
安全と言われる備えに安心し

すこしの油断に天禍のくだる

(そして東京に住むわれわれの不安は)

スーパーの食品棚みな空となる

余震恐れる人心かくや

股賑を極める首都の地に深く

鳴りを潜める魔物の住むとは

地下鉄もエレベーターも運命を

天に預ける心地して乗る

桜便り近き弥生の満月の

高くのぼるも禍事めきて

白木蓮咲きあふるるも数知れぬ死者に捧ぐる弔花とぞ見る



左顧右眄～さこ・うべん ～【第6話 関節を科学する】は今回休載します